

必ずお読みください

# インフルエンザ予防接種を受ける方へ

## 1. ワクチンの効果

ワクチンの接種により、インフルエンザ感染を予防し、たとえ感染しても症状が軽くすみます。そのため、インフルエンザによる重症化や死亡を予防する効果が期待されます。

なお、予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗力がつくまでに2週間程度かかり、その効果が持続する期間は約5カ月間とされています。

## 2. 予防接種を受けることができない人

- ① 発熱している人(体温が37.5度以上)や重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ② ワクチン接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことが明らかな人
- ③ 過去に、接種後2日以内に発熱のみられた人、及び全身性発疹などのアレルギーを疑う症状を呈したことがある人
- ④ その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある人

## 3. 予防接種を受ける際に担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓、じん臓、または呼吸器の機能に日常生活が極度に制限される程度の障害を有する人
- ② ヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活が殆ど不可能な程度の障害を有する人
- ③ 薬の投与又は食事(鶏卵、鶏肉など)で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人

## 4. 予防接種の副反応

予防接種の後、まれに副反応が起こることがあります。

### [副反応]

多くは24時間以内に出現します。通常、2～3日中に消失する副反応は以下の通りです。

過敏症	まれに接種直後から数日中に、発疹、蕁麻疹、紅斑、かゆみ等があらわれることがあります。
全身症状	発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、嘔気、嘔吐、下痢、食欲不振、関節痛、筋肉痛
注射部位の局所症状	赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがあります。

### [重大な副反応]

非常にまれですが次のような副反応が起こることがあります。以下の症状がみられた場合は、速やかに医師の診察を受けて下さい。

1	ショック、アナフィラキシー様症状(蕁麻疹、呼吸困難など)(接種後30分以内)
2	急性散在性脳脊髄炎(接種後数日から2週間以内の発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害など)
3	ギラン・バレー症候群(両手足のしびれ、歩行障害など)、肝機能障害、黄疸、喘息発作、血小板減少性紫斑病、血小板減少、血管炎、間質性肺炎、脳炎・脳症、脊髄炎、皮膚粘膜眼症候群

「裏面もお読み下さい」

また、インフルエンザの予防接種により健康被害が生じた場合の救済については、健康被害を受けた本人または家族が独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行う事が出来ます。

※独立行政法人医薬品医療機器総合機構

「医薬品副作用被害救済制度」救済制度相談窓口

TEL0120-149-931 <http://www.pmda.go.jp>

## **5.接種後の注意事項**

- ① 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は、接種後24時間は避けましょう。
- ② 接種当日の入浴は健康状態に異常がなければ差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ③ 注射した部位の異常反応や体調の変化がある場合は速やかに医師の診察を受けましょう。

松園第二病院 ☎019-662-0100